
[平成28年度]

学園の事業計画概要

学校法人 **文京学園**

I 平成28年度事業計画概要

I. はじめに

平成27年4月1日より、島田昌和副理事長が、学校法人文京学園第4代理事長に就任し、歴代の理事長が築き上げてこられた理念を継承し、学園運営に取り組みはじめてから1年になるとうとしています。島田理事長は、理事長就任の挨拶の中で、創立者が掲げた「自立と共生」の建学の精神、「誠実・勤勉・仁愛」の校訓に基づき、その精神の目指すところを現代社会の中でいかに実現できるかを、各設置校の母体として常に念頭に置いて学園運営に努めることを掲げています。また、新年の挨拶では、中高・大学教育において本学独自の視点と特色、信念を持ち、これまで培ってきた提携校との信頼関係を進展させて、間接情報を鵜呑みにせず、広い世界を深く理解しようとする姿勢と行動が一層重要になることを掲げ、文京G C I、「新・文明の旅」プログラム、SSHなどを通じ、欧州や東南アジアの高校や大学との交流を推進し、より広い規模で、お互いの文化を発信し、融合を模索することの重要性を述べています。

昨年度は、大学保健医療技術学部看護学科の2年次から本郷キャンパスの授業開始、また中学校・高等学校の新たな中高女子一貫型教育（3コース制）をスタートすることができました。

本年、平成28年度は、大学が開学25周年の節目の年を迎え、中学校・高等学校の3コース制も2年目となります。いよいよ私どもの学園の真の力が試される年となります。少子高齢化が進む中で、学校を選ぶ目はますます厳しいものになることを覚悟しなくてはなりません。知識基盤社会とグローバル化社会の進展の中で生きる力、真の学力、教養、専門知識、思考力、コミュニケーション力など教育の質の保証が大学にも中学校、高等学校にも強く求められます。大学生は入学し、卒業すればよいという時代ではないのです。地球のどこでも人々と親しく交わり、自分で生きていくだけの実力、できればそれを保証する資格を身に付けた自立し共生する『地球市民』となる必要があります。中高生はもっと自分の将来のことを真剣に考え、世界に目を向けて学び、社会で実力を発揮できる人間になる準備をしなくてはなりません。

このような中、平成27年度において、理事会が学園創立100周年を見据えた方向に向けて着実に実績を積むとともに、これを受けた法人事務局・各キャンパス教職員が様々な具体的取組に果敢な挑戦を行い、大きな実績を残すことができました。主な取り組みとして、次の事項が挙げられます。

- <法人>・1月 本郷キャンパス東本館が「第15回文の京 都市景観賞」で景観創造賞を受賞
- ・2月 本郷キャンパス東本館が「第18回グッド・ペインティング・カラー」で最優秀賞を受賞

- <大学>・4月 「アースデイ東京2015」で貧困救済支援+環境保全を实践
環境保全型フェアトレードコーヒーの販売で学生が啓発活動
～フィリピンでの「アグロフォレストリー」農法を周知～
- ・5月 25年続く伝統行事に141名が参加
学生のあきらめない心を育てる「30km ウォーキング」開催
～本郷キャンパスからふじみ野キャンパスまでをチームで歩く～

- ・ 5月 「日本らしい」場所を巡るフィールドワーク
アメリカからの短期留学生10名が神社での儀式と田植えを体験
神主さんや巫女さんの装束の着装、絵馬やおみくじなども体験
- ・ 5月 学生が埼玉県越生町龍ヶ谷を活性化
「マゴコロ宅急便プロジェクト」を始動
埼玉県中山間「ふるさと支援隊」に文京学院大学として初めて採択
- ・ 6月 お米作りを通じ、農村・都市の融合と課題解決を目指すインターンシップ
“産学官”による農村都市交流プログラムが田植えから本格始動
～ 文京区商店会、群馬県前橋市富士見町と共に、交流活動を行う～
- ・ 6月 精神障害者が外出するきっかけづくりを支援する「ココロノート」を作成
～作業療法士を目指す学生達が住みやすい地域づくりを考える～
- ・ 6月 より良い保育者の育成を目指す保育実践研究センター
公開研究会「子どもの最善の利益ー子どもの声の代弁者としてー」
幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の3者の視点から議論
- ・ 6月 山下泰子名誉教授が「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞
- ・ 6月 シニア対象「60歳からのオープンキャンパス」を初開催
～「健康相談」や「歴史講義」など、対象をシニア層に特化～
- ・ 7月 保護者に対し「親としての就職活動サポート法」を解説
大学3年生の保護者を対象とした「就職活動説明会」を実施
学生・保護者・大学の三位一体の就職活動支援の一環として実施
- ・ 7月 文京区との共催イベント「文京ミ・ラ・イ対話」
地域住民50名・区職員・本学教員と地域の課題と解決策を探る
重点テーマは「文京区での暮らしの豊かさを上げていくには」
- ・ 7月 先輩が1年生に大学生活で気づいた自らの“てっぺん”や“スイッチ・オン”を発表
- ・ 8月 あそび×まなび=無限大 今年も開催「まなびとあそびのキャンパス」
- ・ 8月 埼玉県越生町龍ヶ谷での「ふるさと支援隊」の活動が本格始動
- ・ 8月 学習アドバイザーとして「ふじみ野寺子屋」に学生が参加
- ・ 9月 大学院生が日本電気泳動学会総会で優秀ポスター賞受賞
- ・ 9月 本学学生が制作協力・配給した映画「瞬間少女」が国内映画祭でグランプリを受賞～9月27日、米国の映画祭「LA EigaFest 2015」で上映
- ・ 10月 中山智晴人間学部教授がふじみ野市から功労賞受賞
- ・ 10月 経営学部の高橋円香助教が会計理論学会で奨励賞を受賞
- ・ 10月 「第7回地域活動発表会 福島」に本学学生が参加
- ・ 10月 36年の実績を持つCLECが「子ども英語教室」オープンハウスを開催
- ・ 10月 文京区内小売店を紹介する日英ガイドを作成するフィールドワーク
外国語学部1年生273名が外国人の視点も取り入れて地域を紹介
～10月28日、地域の魅力を探るため47店舗にチームでインタビュー～
- ・ 10月 政府が推進する「1億総活躍社会」の実現に向けた「1億総活躍国民会議」
本学人間学部・松爲信雄教授が民間有識者として参画～ 障害者の職業問題に関する研究をライフワークとし、「職業リハビリテーション」が専門～
- ・ 11月 市民フォーラムで人間学部の梶原隆之准教授が登壇
- ・ 11月 文部科学省のパラリンピックアスリート支援事業をサポート
- ・ 11月 産官学連携の農村都市交流プログラムに参加

- ・ 1 1 月 2 1 名の交換留学生が体験する特別授業
外国にルーツを持つ子ども達と異文化交流～ 1 1 月 1 3 日「たぶんかフリースクール 本校」（東京都荒川区）で開催 ～
- ・ 1 1 月 医療ケアが必要な家族向けイベントに協力
- ・ 1 1 月 農林水産省主催のアワードに学生チームがノミネート
- ・ 1 1 月 学生がふじみ野市のグルメ・ショッピングイベントを支援
- ・ 1 2 月 先輩や卒業生が在校生に「働く意味」を伝えるフォーラム開催
- ・ 1 2 月 学生ボランティアが地域の子どもたちを対象にスポーツ支援やクリスマス会実施
- ・ 1 2 月 本学とふじみ野高校との 6 年目を迎える高大連携講座
大学生が先生役を務める授業を高校生 1 6 0 名が体験 ～ 「スポーツ障害」「携帯電話とゴリラ」「空き家の活用」など多様な授業を展開 ～
- ・ 1 2 月 日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2 0 1 5」に出展
- ・ 1 2 月 高齢者福祉施設で学生ボランティアが演奏会を開催
- ・ 1 2 月 自転車を使ってイルミネーションを点灯させる環境イベント
- ・ 1 2 月 障害者福祉政策分野で選出された「一億総活躍国民会議」 民間議員
松爲信雄教授による無料講演会 2 月 1 日開催 ～ 2 0 1 6 年 4 月施行「改正障害者雇用促進法」で企業に求められる対応とは ～
- ・ 1 月 経営学部学生 1 0 名による卒業制作展を開催
- ・ 2 月 福島県郡山市市民活動推進顕彰事業「まちづくりハーモニー賞」
人間学部の中山ゼミが“福島県外の団体”で初受賞
～ 1 0 年間にわたり行ってきた都市農村交流を通じた活動が評価 ～
- ・ 2 月 ふじみ野市における市民と行政の協働によるまちづくりを考える講演会に地域
コミュニティを専門とする古市太郎人間学部助教が登壇
- ・ 2 月 身近な先輩である本学 OB・OG による就職相談会
人事採用担当者には聞けない本音トークが毎年好評
- ・ 3 月 “増える訪日外国人” と “高まる地震リスク” に備え、大学が行う防災の取
り組み
外国人向けの「地震 防災マニュアル」を制作ー 地震発生から 5 分の「初動」に特化し、大学の知見である「インフォグラフィック」を活用ー
- ・ 3 月 伝統工芸文化の遺伝子をつなぐ産学連携の取り組み
文京学院大学が岩槻人形協同組合と協定締結
取り組み第一弾は“フクロウ型の眼鏡置き”を開発&商品化
- ・ 3 月 市民団体と学生による東日本大震災復興支援イベント開催
震災から 5 年 希望の灯として和紙&毛糸のランタン点灯”
- ・ 3 月 学生プロデュースの「江戸木目込人形」と「大島紬」をコラボした“最新”の
伝統工芸品～「フクロウ型の眼鏡置き」を代官山 蔦屋書店で発売
期間限定販売：2 0 1 6 年 3 月 1 5 日(火)～4 月 1 7 日(日)
- ・ 3 月 保健医療技術学部の上田泰久助教が医療関係者向け DVD で頸椎へのアプロー
チについて実技指導・解説
- ・ 3 月 発達障害・知的障害児の療育活動支援として学生サークルがイースターパーテ
ィーを開催
- ・ 3 月 自閉傾向がある子どもたちの療育活動支援 学生が子どもと一緒に万華鏡作り
などの遊びを実施

- ・ 3月 学生が1年かけて取り組んできた産学連携事例を発表 日本最大級のアニメイベント「AnimeJapan 2016」へ出展

<中学校高等学校>

- 中学校高等学校改革プロジェクト 平成27年度より3コース制度の実施
 - 中学校 : Global Studies Advanced Science Sports Science
 - 高等学校 : 国際教養 理数キャリア スポーツ科学
- ※中学1年・2年、高校1年の3学年で運用開始(年次進行)
- 「SSH(スーパーサイエンスハイスクール) 関連の主な活動(平成27年度)
 - 4月 プリンセス・チュラポーン高校ペッチャブリ校(タイ)と国際科学交流を本校で実施し、都内を中心に他のSSH校との連携の輪を広げた。
 - 8月 さくらサイエンスプログラムを実施。中国、ベトナムから80名の生徒が来校し、ノーベル物理学賞を受賞した小林誠先生の特別講演やエッグドロップコンテストを実施した。
 - 12月 タイでは全プリンセス・チュラポーン校と全連携SSH校の25校600名規模でのTJ-SSF2015実施した。
人類働態学会などの学会や全国SSH生徒研究発表会などの場で研究成果を発表。人類働態学会では「優秀発表賞」を受賞。
 - 3月 本学本郷キャンパスにおいて関東近県合同研究発表会実施予定。参加校17校・参加人数900名を予定。
 - その他 「親子で体験!SSラボ」小学生の親子を対象に理科実験教室を実施(全8回)
- 「SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト」関連の主な活動
 - 4月 SGHアソシエイトの指定を文部科学省より受ける(5年間)、「アジア・アフリカを知ろう」グローバル講座実施(中2)
 - 5月 第1回SGH連絡協議会参加(筑波大学)、探究の技法Iのガイダンス(中1)
 - 6月 探究の技法Iの実践(中1)「ようこそ東京へ」研究レポート開始(中1)
 - 8月 グローバルセミナー(英語集中授業)、外務省・大使館、外資系企業訪問(高1)
 - 10月 空間力校外学習、都電の旅(中1)、横浜今昔(中2)、鎌倉探訪(中3)
東京海洋大学との連携によるアジア研究「Inspire」のプロジェクトスタート(高1・2)
 - 12月 SSHとのコラボによる全国研究成果発表会実施(高1)、第2回連絡評議委員会
 - 1月 校内研究成果発表会(英語と日本語によるポスターセッション)(中1)
- 「スポ学教育センター」関連の主な活動
 - ・Sports Scienceコース(中1・2年)スポーツ科学コースの探究活動
 - 9月 学園祭での成果発表
 - 3月 スポーツ科学コース研究発表会の開催
 - ・課外活動「スポ学講座」の開催

「人間とスポーツ」をテーマに4回実施

- ① 「身体のしくみ」併設大理学療法学科の協力
 - ② 「こころの調べ方」併設大心理学科・東京福祉大学心理学科の協力
 - ③ 「スポーツと栄養」中高家庭科の協力
 - ④ 「スポーツ全般」中高体育科・了徳寺大学トレーナー学科の協力
- ・「文武両道」をめざすための学習支援
学校全体の動きに先駆けてのICTの導入（学力上位者への「受験サプリ」の導入）

○主なスポーツ、芸術活動

- ・高校バレーボール部 関東大会「第3位」 全国高校総体「準優勝」
全日本高校バレーボール選手権大会（春高バレー）「第3位」
- ・高校カラーガード部 関東大会・全国大会 トールフラッグ部門「第1位」
- ・高校サッカー部 東京都大会「第4位」 関東大会「準優勝」
- ・高校新体操部 東京都大会 団体競技「第4位」
- ・高校バトン部 関東大会「第2位」 全国大会出場
- ・中学バレーボール部 関東大会「準優勝」 全国大会出場「ベスト8」
- ・中学サッカー部 東京都大会「ベスト8」 関東大会出場
- ・馬術 和歌山国体 馬術リレー競技「第3位」 高校生1名
- ・ローラースポーツ 世界大会出場（台湾） 高校生1名
- ・書道部 高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会 中高生8名入賞

○進学実績

今年度も、大学進学実績が大幅に伸びました。特徴としては、筑波大学、防衛大学校・航空大学校の合格をはじめ国立大学合格や理系著名大学への合格ができたことであり、これはSSHの活動等の特徴が根付きはじめてきたことを示しています。この傾向は、本校の知名度を更に向上させることが出来ると考えております。しかしながら、私学をとりまく経営環境は年々厳しさを増しており、他校との差別化を図るためには、長年培ってきた教育力を再編することにより、他校がまねの出来ない独自の教育プログラムを広く提示していくことが求められると判断しました。それが27年度よりスタートしたコース制であり、2020年入試を念頭に高い目標を持った生徒、将来の夢を描ける生徒を獲得することで、高いレベルの教育成果を実現し、100周年に向けた新たな一歩として、本校への注目度を更に高めていきたいと考えております。

○高大連携による文京学院大学への進学実績

平成24年 38名、平成25年 63名、平成26年 73名、平成27年 50名、平成28年 48名（3月22日現在）

<文京幼稚園>

○運動会

平成26年11月に園の新正門や園庭への通路など全ての場所が完成し、平成27年度の運動会は完成後初めて、園庭での実施となりました。本園の運動会は、延べ1,000人を超える来場者があり、毎年盛況です。今回は園庭における会場使用方法を大幅に見直し、保護者や外部の方からも「会場設置が工夫されていて、見やすかった」と好評でした。

<ふじみ野幼稚園>

○園創立50周年記念行事・祝賀会の挙行 10月23日。

ふじみ野祭りで50周年神輿を作製、運動会における50周年セレモニー実施、大学ふじみ野キャンパス・講堂にて親子観劇会（劇団風の子・影絵）の開催。全園児・教職員が50周年Tシャツを着て各行事に臨みました。また幼稚園ホールにて祝賀会を開催しました。祝賀会のために園児がホールの飾りつけをしたり、園児が作った鉢に花を植えたりしてお祝いのムードを盛り上げました。

○預かり保育の充実。

保護者からの要望により「朝スマイル」及び14：00から17：00までの預かり保育「スマイル」に加え、今年度から夏季休暇中における預かり保育を実施。夏季の預かり保育は9日間、補助教諭がローテーションで1日2名と管理職の3名体制で実施。保育内容は室内における遊具遊びと水浴びが中心。延べ人数214名。ニーズの高さが伺えました。

これらの成果として、学園全体の教育力の向上、学園教育施設整備の大幅な改善、グローバル教育の推進、高校の大学進学実績向上、大学国家試験合格率向上、就職内定率改善、等が特筆され、学園として、大学では、3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）に即した運営がなされ、それがPDCAサイクル上でも適切な形で展開されており、また、中高校においても、少子化を背景とした厳しい募集環境下において、これまでの伝統を大切にしつつも「新しい中等女子教育のあり方」を意欲的に策定、実践するなど、平成27年度は、真に、教職員一丸となって取り組んだ年であったと評価できるのではないかと思います。

上述いたしました取り組みと実績を更に具現化するため、以下、平成28年度の重点目標と事業計画についてご説明して参ります。

II. 平成28年度の主な事業計画

1. 平成27年度総括と平成28年度目標

学園を取り巻く社会環境は、今年度も引続き変化の激しい不透明且つ厳しいものとなることを十分認識し、学園では、創立100周年（平成36年）を念頭において、『教育力日本一』を目指して、全教職員が一丸となって鋭意取り組んで参る所存です。

<大学>

◇年度目標と特色

1) 研究に関する事項

(1) 科研費の獲得状況と平成28年度目標

平成27年度の科研費採択状況は、本学の教員が研究代表者として採択されている人数は、延長継続者が4名、継続者10名、新規5名での合計19名でした。学部別にみると、保健医療技術学部が10名、人間学部が5名、外国語学部が3名、経営学部が1名です。交付総額は、研究者が使用できる直接経費が11,727,181円、法人が使用できる間接経費が、3,510,000円でした。また、他大学の研究者が研究代表者であり、本学の教員が研究分担者となる研究分担者については、19名が研究分担者となっており、直接経費の総額は2,785,000円、間接経費が814,500円でした。

平成28年度は、「共同研究の推進に関する留意事項（平成22（2010）年度総合研究所長発信）」に基づき、学内の共同研究助成費が採択された場合は、原則として国の科研費への応募が義務付けられているほか、全学的に大学運営会議等を通じて、積極的に科研費への応募を促すことによって、研究代表者として採択される件数を増やしていく努力をした結果、採択件数及び交付総額を増やすことができつつあります。本学の教員が研究代表者として採択されている人数は、延長継続者が1名、継続者6名、新規16名での合計23名で、研究者が使用できる直接経費が23,000,000円、法人が使用できる間接経費が、6,900,000円でした。今後も採択件数及び交付総額の拡大を目指していく目標をたてています。

(2) 共同研究助成費の採択状況

平成28年度の共同研究助成費は、採択件数が、外国語学部4件、経営学部3件、人間学部1件、保健医療技術学部13件の計21件で、総助成費総額は、1,422万円です。

外国語学部	オンライン英語語彙力診断テストの開発
	A Research Study into Vietnam's Project 2020
	子どもの権利実現における開発途上国と先進国の協働の可能性
	ライマン法則探求(2)
経営学部	日系企業の国際展開の動向
	渋沢敬三の社会経済思想－実業史博物館構想に見る経営史アプローチ
	地域発コンテンツによる地方ブランディングの実地検証－実写コンテンツを基軸として(2)
人間学部	急性期病院における「ソーシャルワーク必要介入基準」及び職務明細書(まらこ Decription;JD)の検討
保健医療技術学部	炎症性腸疾患における副交感神経作用薬の関与
	姿勢安定度に寄与する身体機能についての検討
	学齢期の発達障害児とその保護者への SST プログラムの効果

	真菌(足白癬菌)汚染状況の疫学的調査及び簡易検査方法の開発に関する検討
	拇趾伸展動的装具が姿勢制御に与える影響について
	選択的注意機能及び二重課題遂行機能の定量的評価と転倒予防トレーニングの開発
保健医療技術学部	眼球運動と注意機能に着目した転倒回避プログラムの開発
	大震災後の災害公営住宅における集会所プログラムの効果検証
	腎機能変化を予測する非侵襲検査開発のための尿中エクソソーム機能解析
	アルツハイマー病のタングル形成・進化に潜むタウ・イソ蛋白遷移:5重IF-銀染色とLMD-MSによる解明
	尿路感染症のプロアントシアニジンを用いた新規治療法の構築
	低分子化合物による大腸癌がん幹細胞誘導法の基礎的検討(I)
	産褥期ペアレンティング教育“What Were We Thinking!”(日本語版)の有効性の検討

(3) 学長裁量経費の成果と平成28年度予算とテーマ

平成27年度から、学長が、学内の教育改革に取り組む教員または組織(学部等)を財政的に支援することを目的として、「学長裁量経費」制度を創設し、教育改革に特化された取り組み計画に対して、学長裁量経費予算として一会計年度当たり200万円を計上して、新たに支援を開始しました。平成27年度のテーマは、「ストレス耐性のある人材育成」または「永久サポート大学」あるいは両方としました。学長裁量経費選考委員会の選考結果は次の通りです。

テーマ「ストレス耐性のある人材育成」

- ① 子ども向けサイエンス教育プログラム開発・運用を通じた人材育成

申請者 代表者 人間学部 長野祐一郎
採択金額 580,000円

- ② 学外の異質な他者との交流とストレス耐性のある人材育成

申請者 代表者 経営学部 絹川直良
経営学部 川崎 清
経営学部 草野千秋
採択金額 240,000円

- ③ 専門を活かした社会貢献一障がい者スポーツに力を提供し、障がい者スポーツやアスリートから挫折を乗り越え強く生きる力をもらう。

申請者 代表者 経営学部 新田都志子
採択金額 250,000円

テーマ「永久サポート大学」

- ① 本学理学療法学科卒業生のスイスでの学術研修について

申請者 代表者 保健医療技術学部 福井 勉
保健医療技術学部 正保 哲
GSIグループ 三村節子
採択金額 680,000円

テーマ「永久サポート大学」及び「ストレス耐性のある人材育成」

- ① 臨床検査学科病理教育導入に向けた大標本作製の試験運用

申請者 代表者 保健医療技術学部 山田哲夫
保健医療技術学部 関 貴行
採択金額 250,000円

平成28年度は、昨年度と同様に一会計年度当たり200万円の予算を計上するとともに

に、年度初めに、平成28年度に取り組むべき教育改革テーマを学長が発表しました。

この予算は、学内における公募による自由競争によって配分します。

平成28年度 テーマ

継続テーマ 「ストレス耐性のある人材育成」または「永久サポート大学」あるいは両方

新規テーマ 「支援に必要とされるコミュニケーション技法」

2) 教育改革に関する事項

(1) G C I /平成28年度に完成年度を迎える

平成25年度から始まった全学部横断型グローバル人材育成プログラムであるG C I (Bunkyo Global Career Institute) がいよいよ平成28年度に完成年度を迎えます。アイデンティティをもって発信し合うためのグローバル英語、ユーラシア地域を中心に多極化するグローバル社会を体感するための異文化間理解・共通科目群、ビジネス現場で即戦力を身に着けるための学部発展科目群、グローバル社会を体感する多彩な留学・研修、グローバルビジネス現場での活躍を視野に入れ、遠隔地双方向授業も取り入れた学生・教員・職員が一体となって学生自身のキャリアアップをはかるキャリア科目群、グローバル専門力を向上させる専門知識と専門英語を学ぶ学部発展科目、国内だけでなく、海外のインターンシップも含めた実践的なカリキュラムで、語学力や異文化間理解を発展的に生かせる力を身に着けさせる実践的キャリア開発など、他の大学にない斬新なプログラムであるG C Iは、完成年度を迎えて、PDCAサイクルでこれまでの実践と成果を分析評価し、さらに改善を行って、G C Iの取り組みを完成度の高い教育プログラムとして発展させていきます。また、多様な留学奨励金も用意されています。必要な予算措置を特別予算として計上します。

主な交流・提携大学

ヴェルコ・タルノヴォ大学、ソフィア大学	ブルガリア
アンカラ大学	トルコ
アレクサンドル・イオン・クーザ大学	ルーマニア
ラトロブ大学、モナシュ大学	オーストラリア
オタゴ大学	ニュージーランド
トリバン大学	ネパール
北京語言大学	中国
国立高雄餐旅大学	台湾
光云大学	韓国
タマサート大学	タイ
パーペチュアルヘルプ大学	フィリピン
マラ工科大学	マレーシア
カンタベリークライストチャーチ大学	イギリス
ロンドン芸術大学	イギリス
トンプソンリバーズ大学、ブロック大学	カナダ
セント・ベネディクト大学/セント・ジョンズ大学	米国
カブリロ大学	米国

(2) 経営学部経営コミュニケーション学科/平成28年度より新学科名称

経営学部は、平成27年度中に学科名の変更手続きを行い、次世代のコミュニケーション

スキルと言われているビジュアル・シンキングを教育コンセプトに掲げる教育改革を行いました。

平成28年度からいよいよ新学科である経営コミュニケーション学科がスタートしました。ビジュアル・シンキング委員会を立ち上げるための予算を計上しています。

(3) 人間学部コミュニケーション社会学科

人間学部コミュニケーション社会学科の在り方については、昨年12月の教職員研修会で、コミュニケーション社会学科将来構想案が学科長より説明があり、まちラボ構想や1・2年次はふじみ野、3・4年次は本郷で基本的に授業を行うこととなります。具体的には、平成29年度入学生が3年次になる平成31年度から本郷で学びます。今後の在り方について、継続して理事会サイドとコミュニケーション社会学科の教員とで協議し検討していきます。

3) ICT教育の充実に関する事項

平成27年度は、ICT教育環境の整備の為、両キャンパスで、情報処理教室やマルチメディアラウンジのリプレース、サーバーの置換や無線化を進めるため大規模な予算計上を行いました。平成28年度はネットワーク機器の老朽化対策や教職員メールサービスの移管、B'sLinkのプログラム修正その他公式ホームページの刷新を予定しています。

4) 教職協働による補助金獲得の取り組み

補助金関係では、平成27年度の収支改善に大きく貢献した文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1の採択について、大学改革をさらに推し進め、平成28年度も採択されるように目標を定めます。平成27年度は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの策定、公表、学長を中心とした全学的な教学マネジメント体制の提案、IR担当部署の設置及び専任の教職員の配置、教育課程の形成・編成への職員参加の仕組み、教員の質的転換に関するSDの実施、準備学習に必要な時間又はそれに準じる程度の学習内容のシラバスへの明記、シラバスの到達目標の明記、シラバスの記載内容の適切性について第三者のチェックの実施、学生の学修時間の実態や学修行動の把握の組織的な実施、学生による授業評価結果の活用、教員の教育面における教育制度の設定、FD実施のための組織、アクティブ・ラーニングによる授業の実施、履修系統図またはナンバリングの実施、オフィスアワーの設定、GPA制度の導入・活用、学生の学修成果の把握、履修科目登録の上限単位の設定、教育改革に取り組む教員への財政的支援の予算、高等学校教育と大学教育の連携、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選抜の実施について、総合的な教育改革を推し進めた結果、補助金が採択され、私立大学等経常費補助が約26百万円、私立大学等教育活性化設備整備事業が約27百万円、私立大学等教育研究施設整備費補助（私立大学等改革総合支援事業分）が約38百万円で合わせて約91百万円を獲得することができています。平成28年度は、採択時要件がさらに厳しくなることが予想されていますが、特に「能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選別の実施」が求められているため、教学と入試との総合的な改革を検討していきます。

5) 学生募集に関する事項

大学では、平成28年度入学定員に対する入学者は、外国語学部、経営学部、保健医療技術学部（理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科、看護学科）、人間学部（児童発達学科）は定員を確保することができましたが、人間学部（コミュニケーション社会学科、人間

福祉学科、心理学科) で定員割れとなりました。

	入学定員(a)	入学者数(b)	定員充足率(b÷a)
外国語学部	240人	244人	101.7%
経営学部	235人	283人	120.4%
人間学部	400人	288人	72.0%
保健医療技術学部	300人	332人	110.7%
4学部計	1,175人	1,147人	97.6%

経営学部は、学科名を平成28年度から経営学科から経営コミュニケーション学科に変え、ビジュアル・シンキングの学び手法を導入し、インフォグラフィックを学ぶという本学独自の教育プログラムをスタートさせます。その事前広報効果があり定員を十分に上回る志願者を集めましたが、広報活動をさらに推し進め浸透させていくことで志願者増を目指します。

外国語学部は、グローバル化の影響を受け、学部・学科を問わずグローバル教育が受けられるようになり、差別化が最も難しい学部です。その中でも「国際系」と言われる領域は学生募集も比較的堅調のようですが、語学だけの学科は苦戦している大学も多くあります。全学的な取り組みであるGCIが平成28年度に完成年度を迎えるにあたり、その教育効果を分析し、取り組みを改善していく中で、特にGCIプログラムの中心となる外国語学部の募集につなげていきます。

保健医療技術学部は、すべての学科で多数の志願者を集めています。本学の伝統、教育、設備などが総合的に高い評価を受け、志願者・入学予定者ともに安定的に確保することが出来ました。課題とすれば、ここ数年新設が相次いで競争が激化した理学療法学科の人気に陰りが出始めたところです。今後も全国平均を上回る国家試験合格率や本学独自の教育プログラムを確実に伝えていくことで、さらに難易度の高い大学群を目指します。

人間学部は、4学科とも志願者減が続いており、それぞれ教育改革を行う必要があります。この分野は女子志願者の割合が高く、且つ地元志向が非常に強いため、一般入試よりは、AOや推薦入試で入学先を決めることが主流となっています。志願者確保には、学科の魅力づくりをはじめ、AO・推薦制度の改革が欠かせません。

コミュニケーション社会学科については、社会学系統の学部が苦戦しており、すでにコミュニケーション社会学科の在り方については、改革を推し進めており、学科教員と理事会メンバーとの協議も行っています。

人間福祉学科においては、景気回復に伴う一般企業における就職採用状況の改善と国内における福祉関係への就職イメージの悪化もあり、全般的に若者からの人気は下落しており、募集環境は厳しいですが、国家試験合格率は全国平均を絶えず上回っており、少ない募集市場の中でも、本学の特色を地道に伝えていくことで、定員確保に近づけていきます。

心理学科は、全国的にみて、かつてのような心理学科人気はありませんが、あらたに設けられる心理の国家資格「公認心理師」養成校について検討していきます。公認心理師は保健医療、福祉、教育、その他の分野において、心理に関する支援を必要とする人の相談に応じたり、心理状態を観察・分析したり、相談者への助言や指導、その他サポートを行うと定義されており、心理の専門職として幅広い分野における活躍が期待されています。

児童発達学科は定員は確保しましたが、志願者減が続いています。保育系の仕事の魅力低下が受験生に浸透し、全体として志願者が大幅に減少してきています。教育系は比較的安定していると言われてはいますが、教育系のライバル大学はブランド校ですので競争環境は厳し

いです。「保育系」では女子大に志願者を奪われ、「教育系」ではブランド校に志願者を奪われています。今後さらに学科内の特色を明確にする必要があります。

◇重点課題

学園の建学の精神である「自立と共生」を基軸として、第3回「新・文明の旅」プログラムの準備を推し進め、G C Iの完成年度に向けて、グローバル教育をさらに推進していきます。

- (1) G C I運営組織として整備された「国際交流・G S Iセンター」を核として、学生サポート体制の一層の拡充を図る。
- (2) 海外交流提携校の拡充
- (3) 海外留学インターンシップ強化推進
- (4) 3年目を迎える保健医療技術学部看護学科のサポート体制の更なる強化
- (5) 経営学部経営コミュニケーション学科の新たな教育プログラム推進
- (6) 全学将来構想委員会による将来構想答申
委員長：副学長、各学部・事務局より委員を選出し、1年程度をかけて将来構想について検討したもの。
- (7) 学長の所信表明と学長裁量経費
創立90周年式典で示された二つのビジョン、「ストレス耐性のある人材育成」と「ライフステージにあわせた永久サポート大学」の構想は、理事会で承認された後、学長より正式に平成27年度、平成28年度の学長裁量経費のテーマとして掲げられ、全学で様々な取り組みがスタートしている。今後10年の間に実現させていく。

「ストレス耐性のある人材育成」

- 第一段階 学生が個人的達成感を得られる機会を提供する（ぶんきょうダービー構想など）取組
- 第二段階 ストレスを抱えた学生のケアの充実（保健室での問題学生の早期発見と適切なケア対応ができるシステム作り）
- 第三段階 病的ストレス状態にある学生の早期診断と早期対応のほか専門診療科への速やかな診療情報提供ができる体制づくり

「永久サポート大学」構想

他大学に類をみない取り組みになる。文京学院大学を卒業した学生に対して、その後のライフステージに応じた様々なサービスを終生にわたって大学が提供する仕組みを考えていく。そのためには全教職員の知恵と行動力を結集し、「データ」の集積、卒業生の現況等の調査を実施して取り組む。

(8) その他平成28年度取り組み予定の事項(一部)

- 学生ライフプランコンサルティング
- 障害のある起業家との連携協力
- 文京区との連携強化
- 永久サポート大学への取り組み～同窓会と生涯学習センターの協力推進
- 岩槻人形協同組合との協定締結と発展
- ロンドン芸術大学との連携

<中学校・高等学校>

中学校・高等学校は、募集環境は大変厳しく、平成27年度入学者は前年に比べて大幅に定員割れとなったが、平成28年度に入学者については、改善しつつあります。スーパーサイエン

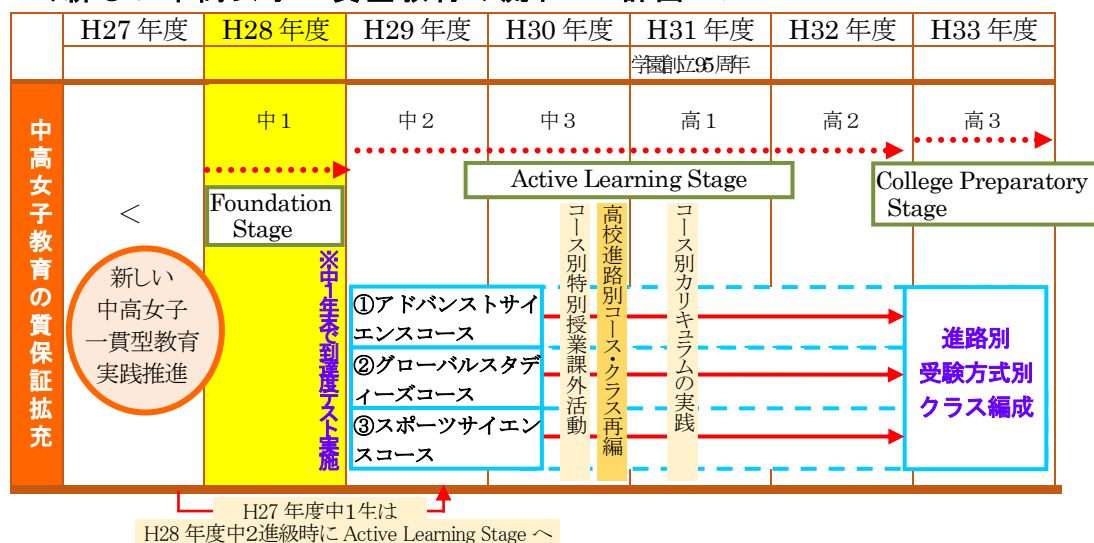
スハイスクール（SSH）指定校でありまたスーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイト指定校でもあります。中学校の3コース制（グローバルスタディーズ、アドバンスサイエンス、スポーツサイエンス）、高等学校の3コース制（グローバルスタディーズ、アドバンスサイエンス、スポーツサイエンス）が少しずつ浸透していく中で、着実に志願者を増やし、定員確保を目指します。

◇重点課題

教育力強化

- (1) アドバンスサイエンス、グローバルスタディーズ、スポーツサイエンスのコースごとに教育プログラムを体系化、再編することで特色ある教育を実現する。
- (2) コースごとに統括リーダーを任命し、リーダーのマネジメントの下に、各学年、教科会が一体となり、6ヶ年あるいは3ヶ年のスムーズな学年進行を実現する。
- (3) アドバンスサイエンスは、SSHプログラム及び科学塾、SSクラブでの学びを土台に、グローバルスタディーズはSGHの教育プログラムを軸に国際塾の一部を単位化するなど英語教育のさらなる充実を図る。スポーツサイエンスは各学年の探究活動を体系化すること、スポ学講座の座学に加えてフィールドワークを実施することでコースの特色ある教育の充実を図る。
- (4) コース制の特色の現れた幅広い進学実績の向上を図る。特に、理系においては、国公立大学を目指した進路指導を強化する。文系においては、一般受験を前提とした進路指導、学力向上のためのセミナー等年間を通して実施する。

<新しい中高女子一貫型教育の流れ ～計画～>



- (5) 英語教育に定評のある大学と共同でコース制に相応しい中高英語カリキュラムを開発導入する。
- (6) 授業改善プロジェクトを中心に、全教科においてICT教材を利用したインタラクティブな授業の実現を図る。そのために、外部専門家による研修、指導を推進する。
- (7) コース毎に、個人及びグループからなるラボ機能を新設し、授業改善に資するテーマごとの研究をスタートする。
- (8) 教員育成制度の導入により、教員に対するバックアップを強化する。

<文京幼稚園>

- (1) 重点目標 1 として「遊びを豊かに実現していく力を育む」を設定し、幼児の遊びの充実に対して見直す。
- (2) 重点目標 2 として「人や自然とのかかわりから豊かな心を育てる」を設定し、様々な人との交流から成長を促すことに趣をおく。
- (3) 英語活動におけるチームティーチングの充実のため、ネイティブ英語教師の起用。
- (4) 学校評価体制（外部評価）の確立。
- (5) 「幼稚園紀要研究」（ふじみ野幼稚園との合同）を発表。

<ふじみ野幼稚園>

- (1) 「認定こども園」を踏まえたふじみ野幼稚園将来構想の検討
- (2) 預かり保育の充実
- (3) 特別に支援を要する子への教育力向上
- (4) 児童発達学科及び看護学科からの実習生受け入れ体制の強化
- (5) 学校評価体制（評議員会）の確立

<その他学園としての重点課題>

- (1) 創立 100 周年を念頭においた「各設置校の事業構想」検討
学部・学科の在り方、学部の定員増、大学院の将来構想の調査
- (2) 学園、各設置校間の連携強化
- (3) 大学における各研究教育センターと幼稚園との連携
- (4) SSHにおける連携をはじめとする高大連携強化

2. 施設・設備の整備関係

創立 90 周年記念事業として推進した本郷キャンパスの施設整備が計画通り完了し、平成 27 年度は「100 周年に向けてのビジョン」の方針に基づき、「キャンパス整備基本デザイン」に沿って施設整備を行ってきました。特に施設間での安全安心の格差をなくし均質な教育環境の整備と、エネルギー効率の良いバックアップ体制の実現に重点を置き、計画の立案と実施を行いました。その結果、平成 27 年度をもって本郷、ふじみ野とも大学キャンパスの耐震化が完了いたしました。また、老朽化が著しく緊急度の高い順に校舎の修繕を行いました（本郷 D 館、ふじみ野西 2、3 号館）。安全な施設への整備目標の次のステップとして、天井落下防止対策を実施すべく、災害時一時避難所ともなる大規模空間から調査を実施し、対策の立案を進めました。またエネルギー効率の向上のための方策として既存施設の照明器具の調査を順次実施し、本郷、駒込において一部 LED 化への修繕を実施いたしました。また校地の拡張については、本郷東キャンパスで敷地形状が歯抜けの状態であった土地の買収による取り込みを行い、整形化したためにキャンパス計画に大きな可能性を確保することができました。

施設整備の骨子となる「キャンパス整備基本デザイン」は施行後 3 年が経過し、整備が完了した部分は何点か出てきたために、現時点に合わせ次の 3 年に向けて修正を加え理事会承認を得ましたので、今後は「改訂キャンパス整備基本デザイン」に沿って整備を進めてまいります。本年度は、各学部学科、研究科の動向を見据えながら老朽化施設の更新を中心に整備を進めると同時に近未来の計画を視野に、以下の整備を進めてまいります。

- (1) 本郷キャンパスでは、建築後25年を経過したプロムナード、ラウンジ棟の基本機能である屋根、外壁、カーテンウォールの全面修繕を行います。合わせてC館11階の空調機の更新を行います。
- (2) ふじみ野キャンパスでは、西館教室で固定机椅子となっている2室を可動椅子に改修し、多目的かつ試験対応の改善を図ります。また木製間仕切りとなっている西館の一部を改修し、不燃化校舎として充実いたします。
- (3) 天井落下防止対策として、本郷では最も劣化の著しい学生ラウンジを、ふじみ野ではW302大教室の2室を先行して行い、駒込キャンパスを含めて順次国土交通省、文部科学省の基準に該当する大規模天井を調査・修繕していく予定です。
- (4) 空調設備、視聴覚設備の経年劣化による更新は、本郷・ふじみ野とも順次進めますが、特に本郷B'sダイニングに視聴覚設備を充実してイベント利用として活用できるように新設いたします。
- (5) 省エネルギー化、自然エネルギーの活用については、照明器具のLED化を本郷D館で実施し、さらに見える化設備により学生への教育的活用を行います。
- (6) 駒込キャンパスでは、大学同様経年劣化設備の更新を進めると同時に、教室を改修、新たにアクティブラーニングスタジオとし教育環境の整備を行います。
- (7) 文京・ふじみ野両幼稚園についても、屋上防水、またトップライト周りの修繕等老朽化した施設整備を行います。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として415百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を推進することとし、下記にその内容を示します。

◇ 一般施設・設備の整備等

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を行います。

① 本郷キャンパス(東・西キャンパス)			
a.	ラウンジ・プロムナード屋根等更新	16百万円	
b.	D館6階廊下壁更新・掲示板設置工事	2百万円	
c.	アリーナトップライト目地シール更新	3百万円	
d.	共同研究棟鉄骨耐火被覆修繕	3百万円	
e.	学生ラウンジ天井落下防止工事	11百万円	
f.	C館11階空調改修工事	36百万円	
g.	図書館防犯カメラ設置工事	3百万円	
h.	D館照明LED化更新工事	1百万円	
i.	変電設備整備工事	3百万円	
j.	C館・B館給湯器更新	5百万円	
k.	B'sダイニング厨房機器更新工事	5百万円	
l.	高額備品購入費(印刷機、コピー機)	5百万円	
m.	フロン法改正に伴う空調機器点検	2百万円	
n.	PCB含有安定器の処分費	2百万円	
o.	看護学科修繕費	3百万円	

p.	再整備検討設計料	11百万円	
q.	学内サイン見直し整備工事	2百万円	
r.	TV会議システム更新	3百万円	
s.	非恒常修繕費他	19百万円	小計 135百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	W207、W208教室改善工事	17百万円	
b.	W302天井落下防止対策工事	15百万円	
c.	西館教室建具更新	1百万円	
d.	体育館外壁タイル修繕工事	17百万円	
e.	入試時の図書館利用動線整備工事	4百万円	
f.	クラブ棟外壁修繕工事	9百万円	
g.	介護実習室改修工事（教育対応）	3百万円	
h.	第2グラウンド塀安全対策工事	4百万円	
i.	視聴覚設備更新	19百万円	
j.	空調機更新工事	10百万円	
k.	変電所設備改修工事	4百万円	
l.	電気設備更新	1百万円	
m.	図書館ラーニングcommons空調工事	5百万円	
o.	TV会議システム更新工事	3百万円	
p.	フロン法改正に伴う各種設備定期点検	3百万円	
q.	非恒常修繕費ほか	23百万円	小計 138百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)			
a.	外壁タイル打診調査	4百万円	
b.	第3選択教室改修工事ほか	13百万円	
c.	天井落下防止調査	5百万円	
d.	進学棟煙突アスベスト処理	1百万円	
e.	教室扉修繕	2百万円	
f.	グラウンド諸工事	2百万円	
g.	本部棟他空調設備更新工事	16百万円	
h.	第1体育館照明器具更新工事	4百万円	
i.	進学棟教室系空調機クリーニング工事	2百万円	
j.	PCB含有安定器の含有調査・処分費	3百万円	
k.	第1体育館耐震診断	3百万円	
l.	非恒常修繕費ほか	8百万円	小計 63百万円
④ 文京幼稚園			
a.	園舎各所整備工事	9百万円	

	b.	非恒常修繕費	1百万円	小計 10百万円
⑤ ふじみ野幼稚園				
	a.	園舎各所修繕工事	6百万円	
	b.	体育館耐震設計料	5百万円	
	c.	非恒常修繕費ほか	3百万円	小計 14百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館				
	a.	非恒常修繕費他	3百万円	小計 3百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	3百万円	小計 3百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス				
	a.	セミナー室天井照明更新工事	4百万円	
	b.	屋根金物修繕費	1百万円	
	c.	非恒常修繕費ほか	2百万円	小計 7百万円
⑪ 法人関連				
	a.	bgu.ac.jp メールシステム使用料	4百万円	
	b.	特殊建築物の定期報告(建築・設備)	2百万円	
	c.	教職員用非常食更新	2百万円	
	d.	各種事務経費	32百万円	小計 40百万円
合 計				415百万円

3. 平成28年度予算編成

平成28年度は、各事業計画に基づき、事業間相互の調整を行いながら2月9日、4月28日に開催された予算会議を経て、別添のと通りの予算編成作業を遂行しました。

まず、施設面では「キャンパス整備基本デザイン」に沿って平成27年度に本郷・ふじみ野両キャンパスの耐震化工事は完了したものの、現時点にあわせた「改定キャンパス整備基本デザイン」を策定し、老朽化施設の更新を中心に、近未来の計画を視野に整備を進めます。具体的には、本郷キャンパスではラウンジ・プロムナード各種改修とC館サロン・ド・ブンキョウの空調改修など整備工事(135百万円)、ふじみ野キャンパスでは西館教室における可動椅子への改修工事を含めた整備工事(138百万円)、駒込キャンパスでは教室改善ほか各所修繕工事を含む整備工事(63百万円)、文京幼稚園整備工事(10百万円)、ふじみ野幼稚園整備工事(14百万円)などの支出があります。また、教育・研究活動や学生・生徒の学習支援・課外活動支援に支出する経費である教育研究経費は27億9千4百万

円) となります。

一方、収入面では大変厳しい募集環境を受けて、大学の一部学科および大学院研究科において入学定員未充足、大学全体でも定員を確保できず、中学校高等学校は入学定員を充足できなかったが、保健医療技術学部看護学科が3年目を迎えて学生が約100名増え、学生生徒等納付金収入は69億8千9百万円（対前年4千9百万円増）となりました。また、補助金収入10億1千7百万円（対前年1億5千7百万円減）となり、経常収支は単年度で3億6千5百万円の支出超過、帰属基本金組入前当年度収支差額で4億1千9百万円の支出超過の予算を編成することとなりました。

学園としては、今後の厳しい競争環境に耐え、限られた財源をより効果的に活用できるように予算執行の段階でも肌理細かな管理、工夫を重ねて参ります。

4. 法人運営関係

[財政関係指標]

*平成27年4月1日に「学校法人会計基準の一部を改正する省令」が施行されてことに伴い従前の「帰属収入」は「事業活動収入」に科目名称変更。

- ① 現行の収容定員規模及びこれを支える教員・事務組織を維持し、運営上の収支均衡を図ります。とくに、経常収支の根幹である「学生・生徒等納付金」と「人件費」のバランスに留意し、適正と判断される比率の確保を目指します。

	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画
人件費比率 (対事業活動収入比率)	58.2%	58.5%	59.7%
人件費依存率 (对学生生徒等納付金比率)	72.6%	73.3%	71.1%

- ② 教育研究に必要な一定の経費を投下し、収入との均衡を図りつつ教育環境の維持改善を図ります。

教育研究比率 (教育研究費/事業活動収入)	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画
	31.5%	31.3%	33.1%

- ③ 管理経費

部門別予算の見直し等により、極力管理経費の抑制に努めます。

管理経費比率 (管理経費/事業活動収入)	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画
	12.3%	10.7%	11.5%

[役員および監事の氏名及び役職名]

(平成28年5月1日)

役職	職名・担当職務	氏名	現職
理事	理事長	島田昌和	文京学院大学教授
理事	大学担当	工藤秀機	文京学院大学学長、文京学院大学教授
理事	大学教学担当	櫻山義夫	文京学院大学副学長、文京学院大学教授
理事	大学教学 GCI 担当	本名信行	文京学院大学客員教授
理事	法人事務局担当 大学担当	竹内秀和	学校法人文京学園法人事務局長 文京学院大学統括ディレクター
理事	中学校高等学校担当	佐藤芳孝	文京学院大学女子中学校高等学校統括校長
理事	ふじみ野キャンパス 大学事務局担当	森村幸夫	文京学院大学統括ディレクター代行 文京学院大学ふじみ野キャンパスディレクター
理事	本郷キャンパス 大学事務局担当	森岡俊也	文京学院大学本郷キャンパスディレクター
理事	(外部)	伊東晋	伊東晋編集事務所主宰
監事		清水秀樹	特定非営利法人教職員学校理事長
監事		煙山力	

以上

II 設置学校の状況

1. 設置する学校・学部・学科等の入学定員及び学生数の状況

平成28年5月1日

名 称	入学 定員	28年度入学者数 (男子)	収容 定員	学生生徒 在籍者数
文京学院大学	人	人	人	人
大 学 院 経営学研究科	30	18 (10)	60	42
大 学 院 人間学研究科	30	20 (10)	60	31
大 学 院 外国語学研究科	10	4 (0)	20	10
大 学 院 保健医療科学研究科	20	14 (12)	40	33
経 営 学 部 経営コミュニケーション学科	235	283 (155)	940	1,067
人 間 学 部 コミュニケーション社会学科	60	24 (12)	240	150
児童発達学科	130	124 (18)	520	521
人間福祉学科	110	66 (17)	440	344
心理学科	100	74 (24)	400	369
外 国 語 学 部 英語コミュニケーション学科	240	244 (81)	960	1,006
保健医療技術学部 理学療法学科	80	90 (45)	320	353
作業療法学科	40	48 (11)	160	181
臨床検査学科	80	85 (18)	320	347
看護学科	100	109 (10)	300	315
大 学 計	1,265	1,203 (423)	4,780	4,769
文京学院大学女子高等学校	325	276 —	975	835
文京学院大学女子中学校	150	106 —	450	307
文京学院大学文京幼稚園	60	64 (34)	180	187
文京学院大学ふじみ野幼稚園	100	90 (50)	360	298
合 計	1,900	1,739 (507)	6,745	6,396

2. 設置する学校・学部・学科等の教職員数の状況

(1) 大学教員

[専任基準] (平成28年5月1日)

学部等	教授	准教授	助教	助手	専任教員 合計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学 経営学部	17	5	2	—	24(+2)	(5)
人間学部	29	20	6	3	58(▲1)	(18)
外国語学部	16	8	5	—	29(▲1)	(10)
保健医療技術学部	24	14	22	15	75(▲2)	(54)
経営学研究科	2	—	—	—	2(▲2)	(2)
人間学研究科	—	(人間学部と兼任)			0(▲1)	—
外国語学研究科	(外国語学部と兼任)					
保健医療科学研究科	(保健医療技術学部と兼任)					
合 計	88	47	35	18	188(▲5)	(89)

(2) 高等学校・中学校等、幼稚園教員

[専任基準] (平成28年5月1日)

設置校名	専任教諭	合 計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学女子高等学校	46	46 (▲2)	(7)
文京学院大学女子中学校	25	25 (+2)	(6)
文京学院大学文京幼稚園	14	14 (+1)	(5)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	21	21 (±0)	(10)
合 計	106	106 (+1)	(28)

(3) 職員

[専任基準] (28年5月1日)

設置校等	専任	常勤嘱託等	合 計 (前年比)	有期契約 職員
文京学院大学	116	5	121 (▲2)	(32)
文京学院大学女子高等学校	11	0	11 (▲2)	(4)
文京学院大学女子中学校	(高等学校と兼任)			
文京学院大学文京幼稚園	1	—	1 (0)	(0)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	1	—	1 (0)	(0)
学校法人文京学園	26	1	27 (+3)	(6)
合 計	155	6	161 (▲1)	(42)

Ⅲ 平成28年度収支予算

資金収支予算書(要約)

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
学生生徒等納付金収入	6,989,250	人件費支出	4,966,060
手数料収入	132,590	教育研究経費支出	1,790,870
寄付金収入	14,800	管理経費支出	874,120
補助金収入	1,017,700	借入金等返済支出	1,200
資産売却収入	100,000	施設関係支出	160,860
付随事業・収益事業収入	133,960	設備関係支出	248,630
受取利息・配当金収入	38,000	資産運用支出	313,000
雑 収 入	123,697	その他の支出	818,879
借入金等収入	1,000		
前受金収入	1,381,440	予 備 費	50,000
その他の収入	532,953	資金支出調整勘定	△ 314,733
資金収入調整勘定	△ 1,393,251	次年度繰越支払資金	4,448,554
前年度繰越支払資金	4,285,301		
収入の部合計	13,357,440	支出の部合計	13,357,440

事業活動収支予算書(要約)

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

(単位：千円)

科 目		予 算 額	科 目		予 算 額	
教育活動収入	学生生徒等納付金	6,989,250	事業活動収入	資産売却差額	0	
	手 数 料	132,590		その他の特別収入	10,450	
	寄 付 金	7,810		特別収入計	10,450	
	経常費等補助金	1,017,700		事業活動支出	資産処分差額	13,180
	付随事業収入	133,960	その他の特別支出		0	
	雑 収 入	140,397	特別支出計		13,180	
	教育活動収入計	8,421,707	特別収支差額	△ 2,730		
	教育活動支出	人件費	5,042,700	教育活動外収入	予備費	50,000
		教育研究経費	2,793,670		基本金組入前当年度収支差額	△ 418,713
		管理経費	971,320		基本金組入額合計	△ 225,320
教育活動支出計		8,807,690	当年度収支差額		△ 644,033	
教育活動収支差額	△ 385,983	前年度繰越収支差額	△ 7,381,243			
教育活動外収入	受取利息・配当金	20,000	翌年度繰越収支差額		△ 8,025,277	
	その他の教育活動外収入	0	(参考)		事業活動収入計	8,452,157
	教育活動外収入計	20,000			事業活動支出計	8,870,870
	借入金等支出	0				
教育活動外支出	その他の教育活動外支出	0				
	教育活動外支出計	0				
教育活動外収支差額	20,000					
経常収支差額	△ 365,983					